

「早く大きくなって」

市立岡上小で大豆種植え

大豆の栽培などを通じて子どもたちに食や命の大切さを知ってもらおうと、川崎市麻生区岡上の市立岡上小学校で15日、津久井在来大豆の種植えが行われた。同校近くの納豆メーカー「カジノヤ」が、3年生46人に大豆のまき方や育て方を指導した。

大豆の栽培などを通じて、大粒で甘みがあるのが特長。梶俊夫社長(68)らが、児童に「日記をつけるなど、毎日観察して見守ってほしい」「10日ぐらいで芽が出てくる」などと説明。児童は横50センチ、縦15センチ間隔で土に穴を開け、「早く大きくなつて」と思いを込めて2粒ずつ植えていった。

農業や食の大切さを学ぶ総合学習の一環。近隣の農家から借りている畑の一角、約56平方メートルに約600粒の種をまいた。津久井在来大豆は、しばらく栽培されていなかったことから県内では「幻の大豆」と呼ば

れ、大粒で甘みがあるのが特長。梶俊夫社長(68)らが、児童に「日記をつけるなど、毎日観察して見守ってほしい」「10日ぐらいで芽が出てくる」などと説明。児童は横50センチ、縦15センチ間隔で土に穴を開け、「早く大きくなつて」と思いを込めて2粒ずつ植えていった。

荻山祥英さん(9)は「土に穴を開けるのが面白かった。収穫したら、きなこにして食べたい」と笑顔。梶さんは「自分たちで種をまき、愛着を持って育てることので納豆を好きになってほしい」と話していた。



津久井在来大豆の種をまく児童—麻生区

大豆は11月ごろに収穫する予定。みそや納豆などに加工して、来年1月に保護

者に披露する。

(鴻谷 創)

かわわわわ

情報

